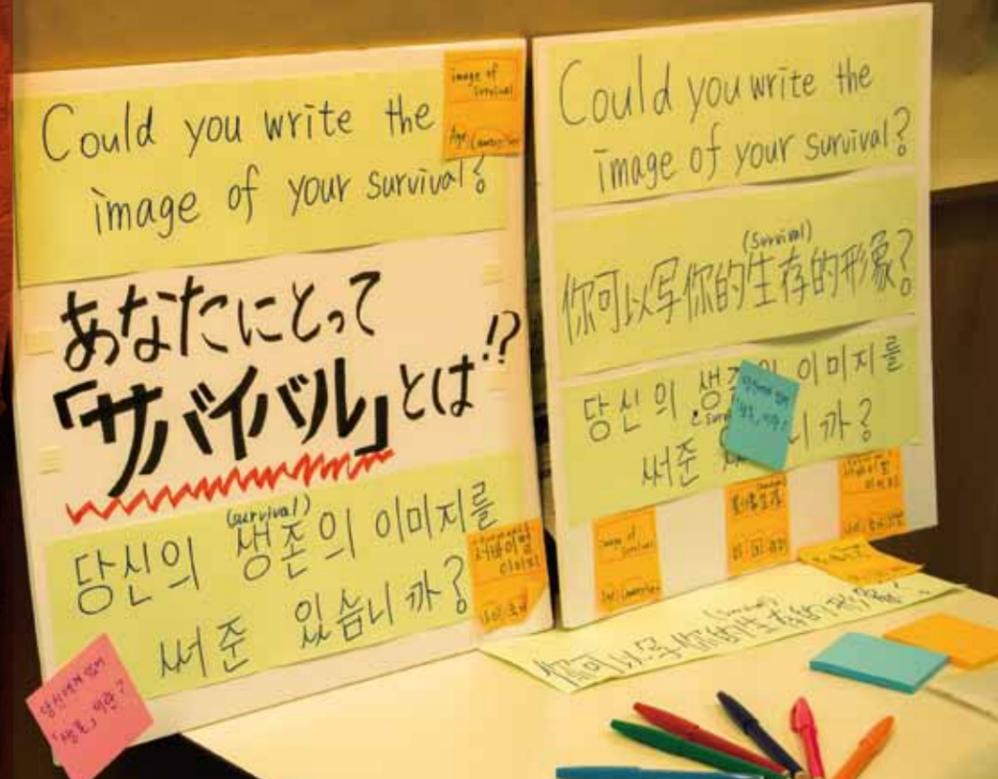


目次 Contents

- 02 事業概要・ごあいさつ
- 03 対談会『これが私の生きる道』
- 07 -Break Time-
あなたにとってサバイバルとは!?
- 08 トークフリマ『reconsider: 本当の自分』
- 12 交流会『また逢う日まで』
多彩なチャレンジと支える力
- 13 -Break Time-
人生いろいろ!?
- 14 実行委員のあゆみ・編集後記



事業概要

日時：2015年9月27日(日) 10:00～17:30

場所：京都市下京青少年活動センター

プログラム：

- 第1部：対談会『これが私の生きる道』
- 第2部：トークフリマ『reconsider: 本当の自分』
- 第3部：交流会『また逢う日まで』

参加者数：165人(延べ345人)

主催：京都市/公益財団法人京都市ユースサービス協会

運営：ユースシンポジウム2015実行委員会

後援：京都市教育委員会/人づくり21世紀委員会/
株式会社 エフエム京都



毎年恒例のユースシンポジウム。なんと今年のテーマは“人生はサバイバル”。とうとうユースサービス協会もサバイバルを考え出したか?どこかのモーレツ企業が言いそうなフレーズ…。でも、いろいろな若者にこのテーマを伝えると、意外に好印象。元気が出るという人もいました。そう!このタイトルは、今を生きる若者にとって必ずしもやさしくない社会を、どうやって軽やかに生き抜いていくのか考えよう、という意図で付けられたものなのです。

学校もサバイバル, 入試もサバイバル, 就職するのもサバイバル, 就職してからもサバイバル……。それがあある意味10代・20代の若者にとっての実感だと思いますし、それは、30代にも続いているかもしれません。

トーナメント戦と違って、人生をサバイバルすることは、しかし決して“自分だけ勝ち残る”ようなものではないと思います。つまりどうやって協力し合って生き抜くのか?そんな戦略をリアルに考えていく場として、今年のユースシンポジウムは企画されました。対談会に登場していただいた3人の方の語りも、正にそんなことを表現していただいたと思うし、トークフリマでは、聞く人があって語ることが出来る、そんな当たり前の空間が出来上がっていたと思います。

この報告書という名のメッセージ冊子を読んでもらい、若者それぞれの“サバイバル”法を味わってもらい、エネルギーを充填してもらえたらうれしく思います。

事業部長 水野 篤夫

対談会：『これが私の生きる道』

「考えるのではなく、感じて。」

自分の道を選びとってきた
お二人からお話を聞きました。

看護学校に通っていた板谷さんは希望の病院に内定が決まっていたけれど、「何かモヤモヤ」していました。そんな中インドへ行き、先生に怒られても「自分の決めた選択をした!」という自信をつけます。そして、彼女は「半年後死ぬなら何したいやろう…」と考え、世界を見に行きたいと決断します。内戦直後のケニアやスリランカを訪れ、戦争の話を聞いたりスラム街に住んだりしていました。帰国後は看護師としてやりがいを持って働いていましたが、救命救急で命の制限を目の当たりにする中、「自分を生きたいな」と思い退職、写真を撮り始めたと言います。

いま、彼女は日本で起きていることについて、「その場の匂いをかぎ、自分の目で見てきたい」と思い、



フォトジャーナリスト 板谷 めぐみさん

沖縄の辺野古に行き、米軍基地問題を取材しています。「メディアでは報道しきれない隠されたものがいっぱいあるんやな」と実感したと言います。「本当に迷ったときは、考えるんじゃなくて感じてほしい。そして自分の生きる道を選択してほしい」と最後に話されました。

「仕事と家族時間、両方を大事に。」

ような支援がしたいと思い、お金の稼ぎ方等を教えられる大家さんになりたいと思われました。当時起業したい気持ちはなく、会社に内定が決まり東京に行った際、ルームメイトに「アーティストを支援したいって本気じゃないだろ。君は自分にウソをついている。」「あんたなんか嫌いよ!」と言われたそうです。自分のことを分かった気でいたけれど、もう一回考え直そうと思い、内定を辞退して京都に帰って来られました。

現在株式会社めいという会社でトキワ荘の大家業をはじめとするアーティスト支援を行っています。幸せの定義を「仕事の時間と家族の時間両方を大事にできる暮らし」とされ、常に「自分自身が実験してみる」ことを大事にされていると話されました。



株式会社めい 共同代表 日下部 淑世さん

日下部さんは元々裕福な家に生まれましたが、11歳のときに画家だったお母さんが自殺され生活が一変する中、「お金が人を幸せにするんじゃないんだなあ」と思われたそうです。

大学進学後はアーティストが豊かな気持ちになる